



●日本の伝統的な色名・萌黄色

萌黄の出典として枕草子に「女の表衣は、薄色（薄紫）、えび染め、萌黄、桜、紅梅」、源氏物語には「薄萌黄色の唐衣」、「唐の薄萌黄色の綾絹」、「柳襲の織物の細長に萌黄らしい小桂」などが見られる。

萌黄とは芽が出たばかりの草木の葉の色を指し、萌黄の別名として萌木色、若草色、浅緑などがある。「萌葱」は浅葱に惹かれた後世の当て字で間違いである。

萌黄色の変相色名として、鶯萌黄、淡萌黄、中萌黄、濃萌黄、影萌黄（木賊色）などがある。

萌黄色の染色方法は藍で空色に染め、刈安で萌黄に染める。また、織色は経糸黄・緯糸藍である。

萌黄のかさねの色目として「桜萌黄」は表萌黄・裏赤花。「薄桜萌黄」は表淡青・裏二藍。「萌黄匂」は上から濃い青茶・同・淡青・緑青・同・同・朱の配色である。

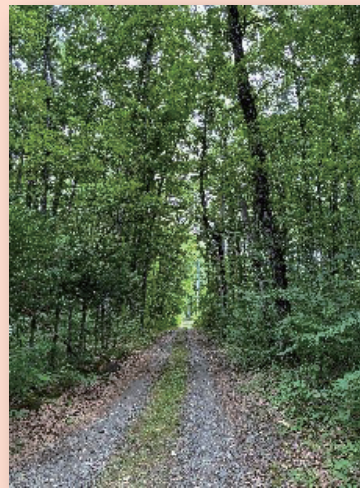
鎌倉・室町・安土桃山の武士政権の時代になると、萌黄色の糸で威した（つづり合わせた）萌黄糸威の鎧が登場してくる。

組紐を使う糸威の鎧は、赤糸威、紅糸威、糸緋威、黄糸威、萌黄糸威、浅葱糸威、縹糸威、紺糸威、紫糸威、卯の花威、白糸威、黒糸威などが代表的である。（永田泰弘）

●絵画視点と自然に学ぶ色彩2

先日、涼と休息を求めて北軽井沢を訪れました。森林の中に身を置くと、自然の音、光匂いなどで、心身がリラックスしているのがわかります。五感を使うことの心地良さは、何ものにも代えられません。

散策しながら、気になる所があると、風景を切り取り、スケッチをします。この風景は大まかに捉えると、黄緑と緑と無彩色で出ています。寒暖を感じない中性色と無彩色がおりなす自然調和は、静かでやさしく、鳥のさえずり、葉音、虫の羽音も感じ取れます。明暗対比もゆるやかです。地平線の位置を決めて、主役は、木々からの瑞々しいエネルギーと森林の向こうに広がるわくわく感も描けたらと思いました。pccs 表色系なら手前に緑の補色でp24とltg24でアクセント。人工音の無い空間は、物です。



（画家：狩野裕子）

●大辞典ひろい読み 88 一こ

黒死病：こくしびょう。死体が皮下出血で黒いあざだらけになるところから、ペストのこと。

国色：こくしよく。その国で一番の容色。絶世の美女。

黒色：こくしよく。黒い色。

黒色人種：こくしよくじんしゅ。皮膚の色で分類した人類区分の一で、黄褐色・黒色の皮膚を持つ人の総称。

黒人：こくじん。黒色人種に属する人。

黒水熱：こくすいねつ。マラリア患者に起こる急性の赤血球崩壊症。黒褐色の尿がでる。

黒体：こくたい。すべての波長の放射を完全に吸収する仮想の物体。白金黒などがこれに近い。熱放射のエネルギー測定の基準体として、キルヒホッフが導入。

黒炭：こくたん。瀝青炭。

黒檀：こくたん。カキノキ科に常緑高木。東南アジアの原産で、材は黒色で堅く光沢があり、家具などに珍重される。

黒鳥：こくちょう。カモ科の鳥。体形は白鳥に似るが、全身黒色で、くちばしは紅色。オーストラリアの原産。

黒点：こくてん。太陽の光球面に出現する黒い斑点。太陽黒点。（永田泰弘）